

越山若水

2021.9.10

米国の現職大統領バイデン氏と

前職トランプ氏。政策も性格もまるで異なる2人だが、国外での軍事負担を減らそうとする点は共通する。米軍は8月、アフガニスタ

ンから完全撤退した▼現地が混乱を極める中でバイデン氏は先月、撤退方針の変更はないのか記者に問われている。20年間、軍を駐留させてきた米国トップの答えは「アフガン人が戦うべきだ」と突き放したものだ。バイデン氏が掲げる同盟国重視は本当か、不安になるうというもの▼11日には、米中枢同時テロから20年を迎える。テロの脅威は今もなくなっていないながら米国が対外姿勢を変える節目となっても不思議でない。ウォール・ストリート・ジャーナルは社説で「タリバンは一夜にして米国が求愛するパートナーに変わった」と皮肉った▼中ロが米軍撤退をどう見るかも気がかり。世界は激動しているけれど、日本はといえば自民総裁選で政治空白まったただ中。しかも菅首相は、政治決断の遅れによりアフガン邦人退避が1人にとどまったにもかかわらず「よかった」と言ってしまう国民をあきれさせた▼総裁選に名乗りを上げる人たちには世界をどう見ているのか、ぜひ語ってほしい。今の日本で新型コロナウィルス対策や経済対策が大事なのは当然。それに加えて、外交・安全保障の議論を深められないようでは、リーダーが務まるはずもない。